要旨

都市祭礼における担い手確保の問題

―川越市元町 2 丁目の事例から―

金子拓矢

少子高齢化による影響は祭礼行事にも影響が及んでいる。共同通信の調査によると、無形民俗文化財に指定された祭礼行事の 60 件が廃止になった。問題として挙げられることは、後継者不足、人手不足、若者の都市部への流出などの、担い手の確保ができないことであると指摘された。この問題に対し、外からの参加、つまりその地域が「外部の受け入れ」をすることが効果的であると推測したのが本研究である。本研究で調査を行った祭礼行事は、国指定文化財にもなっている埼玉県川越市で行われる「川越氷川祭の山車行事」の都市祭礼である。本調査を行った地域は元町 2 丁目で、この町も後継者不足に直面している。計 14 日ほど参加し、町民とのコンタクトを図り、インタビューを行った。先行研究では、過去の権力者が役職を占領していたことや、ほかの町では外からの参加者を受け入れないことなどの事柄があったが、この町にはそういったものはなく、「外部の受け入れ」は好意的であった。しかし、参加にあたり条件はあった。この条件を満たすことが、受け入れる側、参加側のそれぞれに難しい問題になっていた。であるから、何かのきっかけに参加した人の定着が担い手の確保に繋がると考察したが、認識の違いによって、その定着も難しいことが分かった。しかし、その認識の違いを合わせることが、担い手の確保に繋がる。